

2019年度 愛知学泉短期大学シラバス

科目番号	科目名	担当者名	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
23305	調理科学 Cooking science	山本 淳子	専門	2	必修	2年前期

科目の概要

調理科学は、調理の疑問を挙げながら、調理操作を一つ一つ科学的に解明し、調理の再現性に富み、おいしく、栄養面ですぐれた料理を作り上げられるように学ぶ集大成の科目である。また、食品を美味しく食べるための安全・栄養・嗜好を考慮し、多種類の食品素材や技術手法を対象とし、その理論を学ぶものである。近年、調理の合理化・簡素化の流れの中で、調理機器の開発や新調理法などが盛んに行われるようになり、食品素材の持つ基本的性質についての理解が一層重要になってきた。幅広い知識を身に付けることにより、栄養士に必要な科学的に判断する力を身に付けることを目的とする。

学修内容	到達目標
① 食品の特徴を理解し、科学的にその食品の調理性を学ぶ。	① 食品の特徴を理解し、科学的にその食品の調理性を説明できる。
② 食品の歴史、製造方法、栄養効果を知り、調理・加工上の変化について説明でき、応用利用技術等を身につける。	② 食品の歴史、製造方法、栄養効果を知り、食品成分の調理・加工上の変化について説明でき、応用利用を考えることができる。
③ 小テスト、期末試験により、食品の成分と加工特性の理解度を確認する。	③ 調理学に関する過去問題集を理解して解くことができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素

学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例

前に踏み出す力	主体性	1年次に学んだ関連科目を復習し授業に備えることができる。
	働きかけ力	
	実行力	食品の特徴を知るだけでなく進んで疑問点は質問し、解決できる。
考え抜く力	課題発見力	調理科学は経験の学問を科学的に解明する学問であり、調理の問題点について考え行動できる。
	計画力	
	創造力	調理科学は経験の学問を科学的に解明する学問であるが、調理の改善点について考えることができる。
チームで働く力	発信力	質問に対し、自分の言葉でまとめてわかりやすく伝えることができる。
	傾聴力	重要ポイントを理解し、メモを取りながら受講することができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	無断欠席、遅刻、居眠り、私語などの講義に支障をきたす行動をせず、授業が円滑に進行するようにルールを守ることができる。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト:Nブックス 調理科学 森高初恵 佐藤恵美子 編著 建帛社
参考:栄養士認定試験過去問題集 建帛社

他科目との関連、資格との関連

他科目との関連:食品学、調理実習、栄養学
資格との関連:栄養士

学修上の助言	受講生とのルール
シラバスを確認し、テーマに関する食品についてまとめておく。授業後は、単元ごとに小テストを行うので、知識を確認し、授業内容の理解と整理する。	不明な点を質問等により明確にしていくこと。 欠席しないこと。

【評価方法】

評価方法	評価の割合	到達目標	各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
筆記試験	70	①	✓	・各食品の特徴を理解し、調理性、原理について例をあげて説明することができるか、調理による食品成分の変化を科学的に説明できているかを、試験により評価する。 ・持ち込みなしの筆記試験を行なう。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
小テスト	20	①	✓	・小テストは、栄養士実力認定試験過去問から出題する。 ・取り組む姿勢や意欲を確認する。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
レポート				
成果発表 (口頭・実技)				
作品				
社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	(主体性) 質問に自ら進んで解答できる。小テストに積極的に取り組み、点を取ることができる。 (実行力、発信力) 疑問点など積極的に質問することができる。質問に対し、自分の考えを分かりやすく説明できる。 (傾聴力) 重要ポイントはメモを取り、疑問点など質問することができる。 (課題発見力、創造力) 講義で学んだ現象を日常生活のこととして捉え取り入れることができる。自分の考えをまとめることができる。 (規律性) 受講態度(遅刻、欠席、学習意欲欠如、課題やその他の提出物の未提出など)、ルールを守って行動できる。
		②	✓	
		③	✓	
		④		
		⑤		
その他		①		6回以上の欠席はO(放棄)判定となる。
		②		
		③		
		④		
		⑤		
総合評価 割合	100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
S(秀)は、十分に理解でき、問題を完璧に説くことができる。 A(優)は、食品の特徴を理解し、科学的にその食品の調理性を明確にすることができる。自分の言葉で説明することができる。小テスト、期末試験により、食品の成分と加工特性の理解ができ、調理学に関する過去問題集を解くことができる。	B(優)は、食品の特徴を理解し、化学(科学的)にその食品の調理性について説明することができる。 小テスト、期末試験により、調理学に関する過去問題集を解くことができる。 C(可)は、各食品について化学(科学的)に理解できていないところがややある。

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
1週 /	●調理の意義・目的を歴史的な事柄をふまえて学ぶ。	講義と質疑応答	調理の意義・目的を歴史的な事柄をふまえて説明できる。	(復習) テキストp1-4を読んでおく。過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 食べ物と環境についてテキスト p5-8 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
2週 /	●食べ物と環境、食の品質について理解を深める。	講義と質疑応答	食べ物と環境についての語句の意味を理解し、調理するうえで何が必要か考えることができる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 食べ物のおいしさについてテキスト p9-22 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
3週 /	●食べ物とおいしさについて体の仕組みと栄養について学ぶ。	1~2回の小テスト 講義と質疑応答	食べ物のおいしさは、五感で感じていることを説明できる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 食べる側の状態、おいしさについてテキスト p23-46 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
4週 /	●おいしさに関与する要因、特にテクスチャーについて学ぶ。	小テストの学生による 解答発表 解説(フィードバック) 講義と質疑応答	おいしさは、食べ物そのものと食べる側の状態や環境で左右されることを説明できる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 加熱調理についてテキスト p47-50 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
5週 /	●加熱調理の基礎的な調理技術の科学的な理解を深める。ガス、IH、シーズヒーター等の加熱調理機器の加熱特性を知り、その原理及び理論を学ぶ。	3~4回の小テスト 講義と質疑応答	加熱調理操作のガス、IH、シーズヒーター等の加熱調理機器の特性を知り、違いを説明できる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 非加熱調理についてテキスト p51-72 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
6週 /	●非加熱調理(量る・洗う・漬ける・切る・盛り付けるなど)の基礎的な調理技術の科学的な理解を深める。	小テストの学生による 解答発表 解説(フィードバック) 講義と質疑応答	非加熱調理(量る・洗う・漬ける・切る・盛り付けるなど)の基礎的な調理技術の意味を説明できる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 嗜好(おいしさ)についてテキスト p73-105 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
7週 /	●嗜好を考えつつ栄養素の適切な摂取のための食事計画の基礎知識を学ぶ。	5~6回の小テスト 講義と質疑応答	嗜好を考えつつ栄養素の適切な摂取のための食事計画の基礎知識を説明できる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 食品成分の物性についてテキスト p107-113 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
8週 /	●炭水化物、たんぱく質、油脂の食品の組織、物性の変化の基礎的な調理技術と科学的な理解を深める。	小テストの学生による 解答発表 解説(フィードバック) 講義と質疑応答	炭水化物、たんぱく質、油脂の食品の組織、物性の変化の基礎的な調理技術と科学的な理解ができる。	(復習) 過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習) 穀類についてテキスト p114-126 を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法及びフィードバック方法	到達レベル C(可)の基準	予習・復習	時間(分)	能力名
9週 /	●炊飯の3原則について学び、米の炊飯理論を知る。小麦や雑穀について知り、その基礎的な調理技術と科学的な理解を深める。	7～8回の小テスト 講義と質疑応答	雑穀について知り、その基礎的な調理技術と科学的な理解ができる。	(復習)過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習)イモ類、豆類についてテキスト p126-135を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
10週 /	●いもと豆類について学び、その基礎的な調理技術と科学的な理解を深める。	小テストの学生による 解答発表 解説(フィードバック) 講義と質疑応答	いもと豆類について学び、その基礎的な調理技術と科学的な理解ができる。	(復習)過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習)野菜、果物についてテキスト p135-144を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
11週 /	●ビタミン・無機質を多く含む野菜や果物の調理プロセスでの変化を科学的に学ぶ。	9～10回の小テスト 講義と質疑応答	ビタミン・無機質を多く含む野菜や果物の調理プロセスでの変化を科学的に理解ができる。	(復習)過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習)海藻、きのこについてテキスト p148-160, p176-180を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
12週 /	●海藻類・きのこ類の主要成分である食物繊維について食品の特徴と利用法を科学的に学ぶ。	小テストの学生による 解答発表 解説(フィードバック) 講義と質疑応答	海藻類・きのこ類の主要成分である食物繊維について食品の特徴と利用法を科学的に理解ができる。	(復習)過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習)肉、魚についてテキスト p148-160を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
13週 /	●肉や魚について知り、その基礎的な調理技術と科学的な理解を深める。	講義と質疑応答	肉や魚について知り、その基礎的な調理技術と科学的な理解ができる。	(復習)過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習)卵、乳についてテキスト p160-168を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
14週 /	●卵や乳について知り、その基礎的な調理技術と科学的な理解を深める。	11～13回の小テスト 講義と質疑応答	卵や乳について知り、その基礎的な調理技術と科学的な理解ができる。	(復習)過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。 (予習)調味料、香辛料についてテキスト p173-189を読み、ポイントをまとめておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15週 /	●調味料・香辛料は、食事の嗜好を満足させ、食欲増進にも関係する。その基礎を科学的に学ぶ。	小テストの学生による 解答発表、 解説(フィードバック) 講義と質疑応答	調味料・香辛料は、食事の嗜好を満足させ、食欲増進にも関係する。その基礎を科学的に説明できる。	(復習)調味料、香辛料についてまとめ、過去問題集で関連問題を行い整理しておくこと。	180	主体性 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性
ストレスコントロール力